

平成 30 年 5 月 21 日

## 腎臓内科に通院中の患者さんへ(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

**研究課題名** THSD7A 陽性膜性腎症の臨床病理学的検討

**研究機関** 市立札幌病院 (病理診断科)

**研究責任者** 病理診断科／深澤 雄一郎、辻 隆裕

### 研究の目的

膜性腎症は、成人において最も頻度の高いネフローゼ症候群の原因疾患であり、様々な疾患に合併する二次性膜性腎症と、原因のはっきりしない一次性膜性腎症に分けられます。これまでの研究から、一次性膜性腎症の中には PLA2R1 という蛋白と THSD7A という蛋白が関与している一群があることが分かっています。PLA2R1 陽性一次性膜性腎症は治療反応性が一般的に悪いことが分かっていますが、THSD7A 陽性一次性膜性腎症の病態ははっきりしていません。そこで、THSD7A 陽性膜性腎症の病態を探索する研究を実施することといたしました。

### 研究の方法

#### 1 対象となる患者さん

2009年4月1日～2018年3月31日の間に腎生検で膜性腎症と診断された患者さんのうち、THSD7Aが陽性であることが確認された方

#### 2 利用するカルテ情報

- ・患者背景：性別、年齢、悪性腫瘍合併の有無（部位、進行度）
- ・血液検査の結果：
  - 蛋白尿の指標となるもの(蛋白尿量)
  - 腎機能の指標となるもの(血清クレアチニン)

#### 3 利用するその他の試料

- ・腎凍結切片検体ならびにパラフィンブロック検体  
(過去に診断目的に採取され、検査 終了後から現在まで当院で保存されているものを用いらさせていただきます。)

- ・病理硝子標本
- ・電子顕微鏡画像

#### 個人情報の取り扱い

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

※上記の研究に診療情報を利用することをご了解いただけない場合は、ご連絡ください。

#### 【お問い合わせ先】

北海道札幌市中央区北 11 条西 13 丁目  
市立札幌病院病理診断科